

お手紙ごつこの指導

金 成 み き 江

(1) 遊びの動機

子供の生活には、仕事と遊びの區別は全くないと云へよう。お繪かきすること、本読みをすること、おまゝごすること、賣屋さんごつこすることなど皆子供にとつて見れば、すべてが彼等の本心から欲求する生活に他ならない。然かもその生活全體が純心な遊戯に終始して居ることは私達の十分に認めることなのである。家庭より學校へ、幼稚園より學校へ、彼等にとつては痛々しいまでに生活上に大きな／＼ギヤツプを感じるであらうし、又事實大きなギヤツプがあるのが普通である。出来るだけ早く一人前の子供に仕上げようとしての制裁(？)要求規範(？)が加はり過ぎはしまいか、彼等自身も學校と云ふものを、環境の影

響によつて遊び以外の一種の固い生活場所と印象づけられてゐる場合が甚だ多いのは驚かすには居られない。……子供等の眞實な楽しい生活場所としての學校こそどんなに朗かな喜ばしい所であるか、私は眞實な生活をさせたいのである。思ふ存分遊ばせたいのである。教へると云ふ意識を先づ取り去つて、ごつこの仲間入りが出来たら、そこに思ひがけない育みと導きの部面を見出すことが出来る。少くとも教育的價值ありと認める遊び……ごつこには心ゆくばかりひたらせてやりたいのである。

こんな意味で『お手紙ごつこ』などは適當な時機を得適當な暗示を動機とを與へるならば、子供の非常に興味を感じる遊びであり、教育的の價值も甚だ多い遊びである。

休暇前後、新年前後の時機、或は假名文字習得の時機な

ど、その時と場合によつて遊びの動機は種々様々なものがある。

(2) 直観と説話

愈々お手紙ごつこをするときまれば、遊びをより興味深く、より圓滑に、より教育的にさせるために遊びに必要な品物の直観及び説話が考へられる。子供にも家庭よりいろいろ蒐集させ、教師も各種準備して直観させるのである。

1. お手紙 はがき、往復はがき、封筒、繪葉書等、御用によつて都合のよいもので出すこと、特に往復はがきの説明は必要。

2. 切手 三錢、二錢、一錢五厘、五厘等の種類と貼付の場合。

3. お手紙の役目は？……大變便利なものであること。

4. どうして向ふへ着くか。

5. 郵便局のこと。

通信、受信のうれしい經驗發表を程よくなさせて、且右の如き項目によつて、適宜實物の直観と説話をなして遊

びの参考とし興味を起させ且目的活動を意識的にさせるのである。

(3) お手紙ごつこの計劃

直観と説話を基礎として兒童各自、或は各グループに於て遊びの計畫を立てるのである。勿論教師も指導を加へ不備の點を補はなければならない。

1. 各用紙、各切手の準備。

2. 買物用のお金の準備……模型貨幣などあればなほよろし。

3. 郵便局、局員、集配人。

4. 手紙を出す人、受ける人。

右のやうに遊びに必要な品々を考へ、遊びのメンバー、役割を考へさせ、各自の希望をたゞすのである。

(4) 準備作業

先づ遊戯に要する物を製作する。

イ、郵便局——窓形のボール紙、局名の看板。

ロ、簡単なポスト——折箱に投入口と集配口とをつけ郵便局の「二」マークをつける。

ハ、葉書型用紙（普通葉書、繪葉書、往復ハガキ）

ニ、便箋、封筒……西洋紙、畫用紙等使用。

ホ、切手、……色紙。

ヘ、消印の用意……クレヨンで書いてもよろし。

ト、集配人のカバン。

チ、お金……うちぬきならなほよろし、一錢、五錢、十

錢、五十錢位、適宜につくる。お金入れなど餘力ある

者はつくつてもよい。

作業の分擔、——製作するものを各自の希望により又適宜

教師の鹽梅によつて、分業的に準備させるのである。そ

の方法、材料の選定等は子供の計畫にもよらせるが、相

當指導を要する。教師として豫め綿密な準備がなければ

ならない。又製作の難易、速度の狀況によつて作業の完

成に差違を生ずる場合には、完成したグループが手傳ひ

補つて準備をなさせることも、大いに大切なことであ

る。

友達の住所しらべ、——漢字も殆んど不十分なのであるから正確な住所を知り、且書くことは困難である。極く簡略なものとしてしらべさせる。謄寫刷にしてやるのもよい。

役割の決定、——郵便局關係の者には誰もがなりたい希望を出す。そんな場合には順番を定めて交替するやう定める。たゞし頭のきく活動的の兒童の方がよろしい。切手葉書を賣る人、お金を受取る人、スタンプをおす人等約五人位、集配人は二、三名おくのがよろしい。其他便箋封筒、繪葉書を賣る賣店が必要で、お店番の人三名ほどを決める。

(5) 遊戯の實際

(一) 葉書、切手類の買入、——封書や葉書により金高を違はぬやう賣手も買手も十分注意させることが大切である。兒童の中には或は金錢を使用したことのない者もあらう。誠にあつさりとしたもので見てゐると、お釣はいりませんとかおまけしますとか、又いゝ加減な勘定をして平氣

です。買物帳を用意してつけさせるとこの
まちがひもよくわかるし、指導も容易である。

(二) 手紙文、宛名、自分の名を書く——これは殆んど知らない子供が多い。大きく板書で書方を示し、或は實物、手本を用意して形式及び内容共に十分指導してやらなければならぬ。個人的にも注意が必要である。手紙を受取れば無論返事をかくのである。

(三) 局員、集配人の活動——賣ること、スタンプをおすこと、手紙を集配すること等めまぐるしく活動をする。興味あることは賣子になつた者、集配人になつた者などが自然の間に今までの自分の見聞によつて、その人になりきることである。『○○さん郵便!』など、切手を賣つて『毎度ありがたうございます』などの言葉が口をついで連發されることである。

かうした仕組みで遊びがつけられるとその興味はいつまでも盡きない。材料が足りなくなつて大急ぎにつくる、又役割を交替すると云つた風で、この間教師も手紙のやりとりの仲間入りをするのがよろしい。遊戯の計畫よりあそ

びまで相當の日時を要するであらうが、教育的に見て隨分價値多き遊びであると思ふ。

(6) 遊びの整理

遊びはいつまでも盡きないが、適當な時にきりをつけて整理が必要である。通信文面、形式等の出來榮えのよいものは、本人或は教師が級全體に發表するなり、又揭示するなりすれば、全體の參考ともなり或は遊びのよい刺激となるわけである。其他買物帳と殘金とをしらべること、郵便局、賣店の整理をすること、お金を各自に分配しなほすことなども必要である。

又遊びの全般にわたつての反省をなさしめることもよいことである。

(7) 遊びの教育的價値

(一) 常識的陶冶——物の値段簡單な郵便事務關係の常識は直観、説話、遊戯の中に理解することが出來たと思ふし又手紙、葉書の認め方なども大體會得し得た事柄である。

(二) 國語的陶冶——通信の認め方は勿論常識的の陶冶でもあるが、内容方面から見れば自分の意志を他に傳へると云ふ意識より綴られたもので、立派な綴方の習練の機會であつた。自分の意志が對者に十分傳へられず、つまり通信の目的が達せられなければ、すぐにその影響があらはれて來る。極めてそれが如實なだけ、差出人の兒童も受取人の兒童も自分で反省の機會を十分に持つことが出来るのである。殊にほんの假名文字のみを習得した時の遊びとしては、兒童も文字を盛に使用したい時であり、且指導の立場よりも習練の機會を與へたき時であり、甚だ有効な陶冶價値があると思はれる。又遊びの中には絶えず言葉を使用することである、使用して見て初めて言葉は語彙、言語内容が豊富になり、自由な發表をなすことが出来るのである。國語的陶冶としてはこの文字ではなく、文章ではなく、生きた言葉としての陶冶が大切な指導部面であることを忘れてはならぬ。

(三) 數量的陶冶——物を賣買する事實を十分吟味して見ると興味ある幾多の陶冶の部面がある。先づ第一にお金の

價値を知ることである。五錢の白銅は一錢五枚の價値があるもの、十錢は一錢十枚、五錢二枚に等しきものと云ふことや、三錢持つて行けば葉書二枚を買へると云ふことを知るのである。又三と云ふ數と三枚、六枚と云ふ量との關係をも知る機會が甚だ多い、抽象的な數と具體的な量とが極めて自然に關係づけられるのである。又葉書四枚買ふのは幾らお金を拂へばよいか、六錢の買物には十錢出せば釣は幾らか、事實算が常に行はれるわけである。

(四) 訓練的陶冶——準備作業に當つては級全體が分業であつて有機的の活動である。大きな仕事の一部面に各自が參加し、その各自の仕事が全體に影響をもたらすことなどは、社會生活の縮圖とも云へよう。又仕事の巧拙遲速によつて援け合ふことなど、遊戲にあつても十分協調を必要とすることなど、其他訓練的の陶冶部面は有形無形に極めて多いのである。